



生涯にわたって、学ぶ喜びを ～夢と生命を育む生涯学習は、今～



NPO法人地域ケアさぽーと研究所
社会福祉法人天童会 秋津療育園
理事長 飯野 順子

「訪問カレッジ@希林館」の活動は、「余暇活動」ではなく、キャリア形成の場です。そして、かけがえのない人生のかけがえのない「時」を、学びたいことを、学ぶ「時」とすることです。「訪問カレッジ」は、福祉と教育の谷間の事業。新たな生涯学習システムの構築に向けてのチャレンジです。



【伝えたいこと】

- 1 学ぶ喜び・楽しさを、学校時代にしっかり身に付けておくこと
- 2 学校卒業後も、学ぶ喜び・楽しさのある機会と場を用意しておきたい。

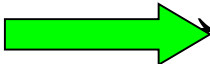
タイプアート（渡辺良子）

外部専門家として、沢山の授業を見て、感じていること

- 生きることは、学ぶこと。学ぶことは、生きる喜び。今、生涯にわたって、学ぶ喜びを創る授業が求められています。
- 授業は、子どもの内的で主体的な学びの場。**子どもが輝く舞台**子ども達は、先生の授業に懸ける思い・願い・熱い気持ちに応えようとして、ワクワクして、生き生きしています。
- どんな授業にも、感動があります。そして、子どもの変容があります。その変容は、ゆっくり、ゆっくりです。
- **完成度80%以上の授業。そして、更に練り上げた自信のある授業では、子どもも、自信を持つことができます。**
- 反応が見えないことは、子どもの障害の重さや能力の低さのためでは、ありません。先生のイメージ力、感性・感度、柔軟性の乏しさです。
- 授業づくりプロに求められているのは、教師の豊かな感性が発揮される、教師の気づきのある質の高い授業です。
- 質の高い授業は、観ている第三者にも、子どもの気づきと教師の気づきが一体となり、共感しあい、響きあっています。

【参考】授業は、子どもが主人公の子どもが輝く舞台 「主体性の感覚」を育てる授業づくりのポイント①

- 1 子どもは学びたいと思っている。その気持ちに応える授業の内容として子どもが学ぶ「喜びや楽しさ」（成就感・自己肯定感）が用意されている。
- 2 授業で、何を学ばせたいのか、子どもは何を学ぶのか明確になっている。**子どもの気づきを促し、子どもがワクワクする「しかけ」をたくさん盛り込んでいる。**

 授業の積み重ねによって、深い学びを創出できる。

- 3 「分かった！できた！」と自分で気づけるよう、**自己選択・自己決定・自己確認**の活動を設定し、結果ではなく、取り組むプロセスを重視している。
- 4 学習は、子どもが分かるシンプルな展開、学習内容を受け止めて、イメージをつくり易いスリムな内容、子どもの心に届くシンプルな言葉かけを心がける。
- 5 学習指導案は、目標が的確に示され、やろうとする授業の展開状況が伝わるツールになっている。

授業は、子どもが輝く子ども主体の舞台 「三びきのやぎのガラガラドン」



橋を渡っている
ことがわかる？
どこに行くの？
何をするの？

三びきのやぎのガラガラドン 子どもの変容は..



子どもが動き、「主体性の感覚」を育てる



- 成果
- ・教室から廊下を通して移動したことで環境が変わり、変化を感じやすくなったため、児童の表出が増えた。
 - ・歌いながらリズムカルに動く等楽しめる活動を取り入れたことで、より主体的に活動できた。
 - ・歌の歌詞を聞いて表情を止めたり、移動した教室の先の道具等を見たりして、考える様子が伺えた。

【参考】どんな授業を創るのか！

「主体性の感覚」を育てる授業づくりのポイント②

- 6 できたことを褒める、賞賛する、認める場合、手立ての工夫をしている。これらを通して、自己を肯定的に捉え、自己に対する肯定的な自己イメージや自己有能感を育てる
- 7 授業の「はじまり」と「おわり」が、スッキリし、キリッとしている。展開と展開の間に、集中力をリセットする間とゆとりも持たせる。
リセットは、**子どもが学習内容を受け止め、子どもなりに考え、整理する時間帯**と考える。思考力・判断力・表現力とつなげる
- 8 場面等の変化に、子どもが気づき、子どもが分かる状況をつくる。～子どものペースで活動を展開する。場面展開や場面の切り替えを工夫する。
- 9 子どもが聞いて分かるように、声のトーン・リズム・スピード・声色・大きさ・柔らかさ等の表現の工夫をする。
- 10 **自立活動とキャリア教育の視点**が示されている。特に、五感を活用した授業づくりをしている。

生涯学習のニーズ(保護者の声)

(1) 継続して外の社会との関わりが欲しい。

「加齢とともに摂食・嚥下機能障害が強くなり、誤嚥性肺炎を起こすようになったため経管栄養になり、退所を求められた」

(2) 在宅生活や病院や施設入所の場合、「日中活動が少ないので関わり手が欲しい。」学校教育との関わりがなくなると、「社会から隔離され孤立している感じになった」、「卒業後もこれまでと同様訪問してくれるようなサービスがあるといい」

(3) 「卒業後も生涯学習の場が欲しい」

① 地域生活の充実のためには、本人の生きがい・好きなことややりたいことなどへの参加・活動の場が必要である。

② 「生活介護事業所にも通っているけれど、生活の介護としての援助はあるが、**学校時代のように本人が集中して意欲的、主体的に活動する学習のような場**が欲しかった」

(4) 在宅生活をヘルパーや訪問看護師等が支えているが、**身体介護や家事援助は、家族支援である**。本人主体の活動としての訪問系のサービスがない。

「第5回訪問カレッジ文化フェスタ」



「訪問カレッジ@希林館」とは・・

- 1 学校卒業後、医療的ケアが必要等のために、通所施設等の毎日の利用が難しい方の自宅等へ、学習支援員を派遣して、生涯学習を支援します。健康で生きがいのある生活を追求し、自らの個性や得意分野を生かして参加することを目指します。

2 経過

平成9年「医療と教育研究会」の立ち上げ

平成19年「地域ケアさぽーと研究所」NPO法人化

平成24年「訪問カレッジ@希林館」の活動開始

3 活動開始の理由（生涯学習のニーズ）

- (1) 医療的ケアのため、在宅生活を余儀なくされている
 - * 通所は看護師不在、入所基準にない。対象外である
- (2) 通所日数を分け合うため、通所日数を減らされる。
- (3) 入所後医療的ケアが必要となり、退所を勧告される。
- (4) 親の高齢化で送迎が困難・生活リズムが崩れる。

「訪問カレッジ@希林館」の現状

元年4月現在

- 1 在学学生 令和元年度 19名
気管切開:10名 人工呼吸器:9名 吸引:11名
酸素療法:7名 経鼻経管栄養:7名 胃ろう:3名 IVH:1名
人工肛門:2名
※退学者とその理由 死亡:5名 施設入所:1名 転居
- 2 訪問先 家庭:12名 病院:2名 入所施設:5名
- 3 学習内容
 - ①体の取り組み(マッサージ、体操、)
 - ②音楽・音楽鑑賞、VOCAやiPadを使った音楽
 - ③意思伝達装置(レッツチャット・マイトビーなど)の活用、
 - ④読み聞かせ ⑤美術制作 ⑥俳句づくり ⑦英語
 - ⑧創作(物づくり)
- 4 週1回 前期・後期(8月と3月は休業月) 授業料 年1万円
- 5 学習支援員(元特別支援学校教員)15名 2か月に1回会合
1回につき3000円の支払い(交通費無し)

訪問カレッジ@希林館 学生の概要

年度	在籍者	気管切開	人工呼吸器	酸素療法	吸引	経鼻胃管	胃瘻腸瘻	I V H	人工肛門
24	6人	3	3	3	5	5	1	1	1
25	9人	6	6	5	9	6	3	1	1
26	10人	7	7	5	10	7	5	2	2
27	10人	8	7	5	10	4	3	2	3
28	10人	8	7	5	9	4	3	1	2
29	10人	8	7	5	9	4	4	1	2
30	15人	10	9	7	11	7	4	1	2

「訪問カレッジ」のはじまり①～今は、夢と希望に満ちあふれている山本利恵さん

スペックスイッチ
で伝の心を操作します。いろいろな作品を書くのが生き甲斐です。

「**さだまさし**」の大ファン。昨年は7年ぶりにコンサーに行きました。

平成26年12月に伝の心を購入して以来、いろいろな作品を書いています。平成27年11月には「**私のところ**」という冊子を作りました。

創作童話集



声を文字に託し 小説を構想中

無職 山本 利恵

(東京都 47)

今年、私と姉、母が年女だ。姉とは双子。私は脳性まひという障害を持っている。四肢体幹機能障害の一種1級である。生活面は全て介助が必要である。

約10年前、一人暮らしを始めた。最初の3年間は順調だった

が、だんだんと呼吸が苦しくなり、肺炎で救急車で搬送された。気管切開を勧められ、両親が私のことを思い喉頭気管分離手術を決心。結果、声が出なくなった。元来話し好きなので受け入れられず、毎日死にたいと親に訴え舌をかんだこともある。以来、文字盤で会話し、文章を書くのは意思伝

達装置を使っている。その装置で文章を書くことがとても好きだ。太宰治の文章に魅了され、「走れメロス」「駈込み訴え」などがお気に入りだ。私も小説を書いていると、楽しくて時間を忘れてしまう。今年、妖精が主人公で、夢や希望に満ちた世界を作る、子供が喜ぶようなファンタジーを書いてみたい。いつの日か、皆さんに作品を読んでもらえるように努力したいと思う。

朝日新聞「声」欄

令和2年1月1日



創作童話
もり

生涯学習のニーズ

山本利恵さん

私は一昨年肺炎になり、気管切開をしました。それで声を失いました。絶望のどん底に落ちてしまいました。その時、元担任の先生から声をかけてもらって、訪問カレッジに入りました

昭和病院で気管切開の手術を受け2週間で入院しました。手術が終わり、声を失ったことを知り、なぜ、分離手術にしたのかと責められ、それから「死にたい 死にたい」と訴えるようになりました。泣いても声が出ないのも、見ていて心が痛みました。身体が不自由でも私には口がある、口を武器にして生きていくんだ、と口癖のように話していましたので、声を失ったことが、どんなに辛かったことか……。本人しかその辛さは分かりません。おしゃべりが好きで、冗談を言っては、笑わせていたのに…。私ももう一度声を聞きたいと思うことがあります。前のように会話を楽しみたいです。救急車で東大和療育センターに搬送され、血液検査をしている時、状態が悪いと感じたのか、「ヤバイ」と言ったのが最後の声でした。

山本由利子(母)

なぜ、カレッジなのか

「特別支援学校には、大学部が無いの」「大学で勉強したい」「大学部をつくって下さい」と校長先生に手紙を書いたMさん。

【カレッジの要件】

- ① **カリキュラム**があり、**系統的・継続的**に学べる年間計画・支援内容・個別の目標・評価を設定している。
- ② 専門的な知識・技能のあるスタッフがいる。
- ③ 健康で生きがいのある生活のために、自らの個性や得意分野を生かす環境がある。
- ④ 希望と夢の実現に力を尽くす。



ミシンでエプロンをつくりました。



学習内容 & プログラム

①

教科学習の場合

14:00～身体への取り組み

(静的弛緩誘導法)

14:20～音楽 (年に数回)

14:40～学習 (約 1 時間)

①伝の心の操作と創作

②文章の書き方や作品鑑賞

③情報 最近のニュース

新聞の投書、川柳、社説

④こころとからだ (精神保健関係のコラム)

15:40～身体への取り組み

卒業後欠かせないことです。

身体への取り組み

リラクゼー

ションでは、先生に対する信頼は抜群で、顔を見ただけ力が抜けます。「椅子に座る」ことが今年の目標です。



世界史では
「ベルばら」
ファンなので
フランスの
歴史を学習
しています。
約1時間
授業中は
吸引無し
だそうです。

訪問カレッジ@希林館
単位取得証明書

山本利恵殿

あなたは訪問カレッジ@希
林館の学習（平成30年度前
期）において「13.6単位」
取得されましたのでこれを
証します

平成30年11月10日

特定非営利活動法人
地域ケアさぽーと研究所
理事長 飯野順子

前期は
13.6単
位取得
できまし
た。
頑張り
ました！

【「生きること」を、学ぶ～自己実現への支援】(Yさん)

* 学習支援員がサポートしていること

- ① 本人と家族への支援→生活上の困難を解消するための情報を提供(コミュニケーション機器の操作・サービス利用等)
- ② 学ぶ機会の提供→関心ある事を、狭く、深く学ぶ(歴史・創作)
- ③ 「呼吸器をつけて生きていく」生活の意義を見出す。
- ④ 学ぶことを通して、自分らしい生き方を言葉と文字に表現する
- ⑤ 在宅生活に「外の風」を送る。(ニュースを通して社会の出来事を一緒に考える。)
- ⑥ 希望や願望を行動に移せるように励ます。本人が思っている「壁」を乗り越える方法を、一緒に考える。

入学式



【プログラム②】

- ・はじまりの会
- ・季節の話
- ・はじまりの歌
- ・身体の手組み
- ・テーマ学習
～iPad・絵本・絵画
- ・おわりの会



訪問カレッジ学生証

平成二十八年 度

訪問カレッジ 入学式

式次第

一、はじめの言葉

わこ

二、新入生呼名 鈴木 和来さん

三、学習支援員 紹介 石井 恵子

四、理事長あいさつ

特定非営利活動法人地域ケアサポート研究所理事長

飯野 順子

五、訪問カレッジ 学生証 授与

六、祝電の紹介

七、ご家族からの祝辞

お父さん

お母さん

修了証を作りました～学びの履歴の証明書

CERTIFICATE OF ATTENDANCE

受講修了証

〇〇 〇〇 殿

あなたは特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所訪問カレッジ
を1年間受講し、多様な経験と知識を学ばれました
よってここに受講修了証を授与致します

令和〇年〇月〇日

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所 訪問カレッジ

学長 下川和洋



【日本文化と季節についての学び】(Sさん)

日本文化学習教材 名所江戸百景(安藤広重)



48 水道橋駿河台

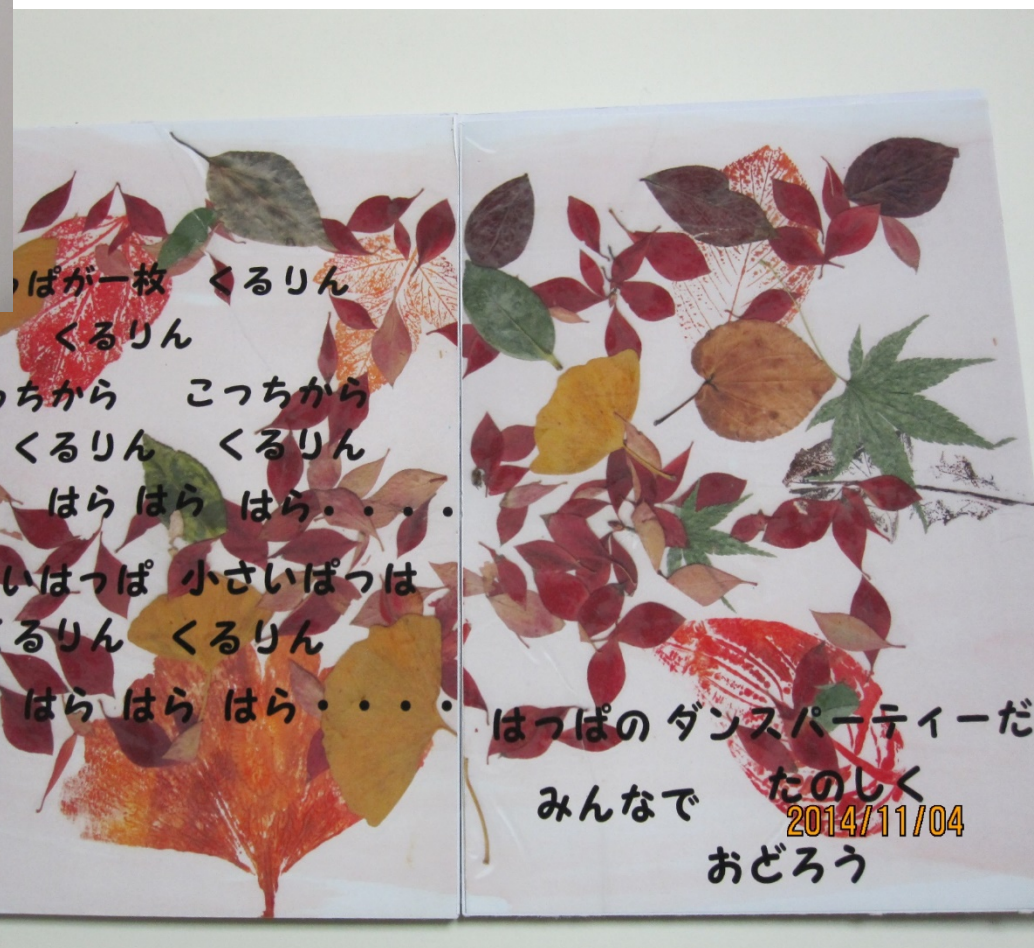


73 市中繁栄七夕祭

母子 で 合作



散歩で集めた枯れ葉で 絵本づくり



【音楽の時間～作曲と発表】(Sくん)オペレートナビで楽譜を入力中・眉間で圧電素子(ピエゾ)スイッチを操作



夢の実現～電動車いすで散歩したい！
唇のスイッチで病院内のお外を散歩しています。



【情報の時間】(Sくん) 「伝の心」で、facebookに日記を書く。 飛行機で、沖縄に行きたい！

5月19日朝、おさるのジョージをテレビで見た。この後、海水浴をした。

かいすいよくが、
きもちよかったぞー。



作品づくりの際の会話に、本人もハッピーに 医療物品のリサイクルによる教材化②



点滴のバッグ

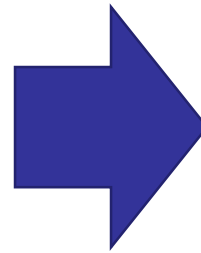


吊り下げ飾り

お母さんのアイデアを生かして.. 医療物品のリサイクルによる教材化①



人工呼吸器の加湿器部分



スノードーム(液体糊活用)

訪問カレッジの活動を通して分かったこと

- ① 学校時代に身に付けたことを、ゆっくりと、自分のペースで、時間をかけて、自分らしさ・その人らしさを育てている。
(ゆっくりした時間軸で活動できる)
- ② 何歳になっても、緩やかではあるが、成長・発達し続け、夢を育み、実現している。
(キャリア発達の視点をもつ)
- ③ 授業が始まると、学校時代に蓄積した力を発揮し、顔が輝き、笑顔一杯になる。(「学ぶことは生きる喜び」を体現している)
- ④ 一週間に一度の訪問であっても、その日を心待ちにし、生活リズムを整えている。(回数だけでない、質が問われている)
- ⑤ 筋緊張や拘縮を予防する、身体が取組が最も必要なことである。
(適切な学習プログラムの設定が肝要である)
- ⑥ 年間を通じて、体調の変化がある。生命と向き合い、その力を精一杯発揮できる「時」は、かけがえのない時間である。
(生命の輝きと価値観の形成がある)
- ⑦ 学習支援員にとっても生き生きした活動の場であり、生涯学習の機会となっている。(人や場とのひろがり・つながりがある)

まとめ：訪問カレッジの意義と役割

1 医療的ケアの必要な方の心豊かな人生への支援

- ①「学び」は、夢・希望そして生命を育み、生きる力を強める。
- ②日常生活の空間を、知的好奇心を促し、知的刺激のある**学びの環境**へ整え、生活の質を高める。
- ③家族以外の人とのつながりを広げる。
- ④**本人主体の活動**を創出し、「**学びの履歴**」を積み上げる。

2 家族の方々への支援

- ①家族の側面的・積極的支援がある。（家族支援）
- ②**家族の孤立化を防ぐ**～話し相手・心理的な支え。
- ③喜びを分かち合い、共感によって関係性を築ける。

3 地域社会への発信

- ①生命を尊重し、**生命の価値**を伝える。

いつでも、どこでも、いくつになっても、育てたい力

- (1) 周囲の大人が、児童生徒の力を限定しない。
 - 「うちの子は、これが苦手」 (事柄の限定)(場所の限定)
 - 「〇〇さんでなければ、持っている力を出せない」 (人の限定)
 - 「障害が重いから、どうせ、わからないだろう」 (能力の限定)
- (2) 一人ひとりの好みを育てる。
 - ・その人らしい自己実現を目指す。
 - ・できること(得意分野)を尊重すること。
- (3) コミュニケーション力(人と接する力・人と関わる力)をつける。
 - ・誰からの働きかけも受け止めたり、受け容れることができる。
 - ・人や物、出来事を受け止め、共感できる。
 - ・楽しそうな姿は、関わる人を和ませる。
- (4) 身体づくり・健康づくり
 - ・からだの持ち主は、本人自身、「動作＝意図→努力→身体運動」の考えで取り組む。
 - ・自分の体や健康状態は、その人なりに分かっていること

【課題1】「重度障害者・生涯学習ネットワーク」の拡大

1 参加団体と代表者（4団体で発足）

- ①「訪問カレッジ@希林館」 NPO法人地域ケアさぽーと研究所
- ②「訪問大学 おおきなき」 おおきなき
- ③「ひまわりHome College」NPO法人ひまわりProject Team
- ④「いるか」 NPO法人 かすみ草
- ⑤「NPO法人あいけあ」 NPO法人あいけあ
- ⑥日野市障害者訪問学級
- ⑦「訪問カレッジ静岡」 静岡県障害者就労研究会
- ⑧「訪問カレッジEnjoyかながわ」NPO法人フュージョンかながわ
- ⑨在宅訪問学習支援事業「学びのサポート」

2 活動内容～2020年3月にネットワーク会議を開催予定

- (1)生涯学習の理解・啓発・情報交換・システムの開発
- (2)生涯学習の学習内容に関する検討並びに系統化
- (3)合同スクーリング及び本人講座の開催
- (4)生涯学習に関わる人材の育成及び確保

課題2 人材の確保と学費等の運営資金



【人材の確保】

- ①学習支援員は、全員元教員。元担任のケースが多いです。これまでの経験を十全に発揮して、ていねいな指導をし、信頼を得ています。
- ②学習支援員同士の情報交換のための打ち合わせの機会が必要です。孤立しないような配慮です。
- ③学校との切れ目のない継続性の確保←つながりを認識し、進路先として支援が必要です。
- ④事故の際の保障として、保険金をかけています。

【運営資金の確保】

- ①資金確保のために、補助金の申請や賛助会員を募集しています。制度化による拡充が必要です。
- ②学習支援員や講師の方への謝金への援助が必要です。

更に、秋津療育園「櫛大学」の取組



9月	入学式(園長挨拶、学生証授与、 オリエンテーション) 音楽鑑賞(ピアノ・リコーダー演奏)
10月～11月	映像音楽鑑賞(世界の音楽)
12月～1月	大学テーマソングの詞を作ろう
2月～3月	音楽に合わせて声を出そう、体を動かそう
4月～5月	大学テーマソングを歌おう、覚えよう
6月	修了式リハーサル
7月	修了式(校歌の発表・演奏)
8月	夏休み

音楽の取組～できることを大切に



秋津療育園 榎大学 学生証



専攻科目

入学年度 平成30年度

学籍番号 2018010

氏 名 秋津 秋太郎

生年月日 H7年7月22日

上記の者は登校の学生であることを証明する
発行日 平成30年9月1日

東京都東村山市青葉町3-31-1
秋津療育園



なぜ、生涯学習なのか 障害者の権利に関する条約」

【第24条】締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、次のことを目的とするあらゆる段階における障害者を包容する教育制度及び生涯学習を確保する。

- (1) 人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の多様性の尊重を強化すること。
- (2) 障害者が、その人格、才能及び創造力並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発達させること。
- (3) 障害者が自由な社会に効果的に参加することを可能とすること。

26. 2. 19発効

※「人生100年時代」「新たな社会 Society 5.0」

生涯学習の基盤①「生涯学習に向けて」の発出 (文科大臣メッセージ)29. 4.7

- 障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指すために関係部局の連携を図ること
- 今後は、障害のある方々が生涯を通じて教育、文化スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう教育施策とスポーツ施策、福祉施策と労働施策等を連動させながら支援していくことが重要。これを「特別支援教育の生涯学習化」と表現すること
- 各地方公共団体においても、関係部局の連携の下、国と共に取り組んでいただきたいこと
- 「特別支援総合プロジェクト特命チーム」と「障害者学習支援推進室」の設置

生涯学習政策局から総合教育政策局へ（平30. 10） 学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議



障害者の生涯学習の推進方策について」報告（31・3）

- 障害者の生涯学習を支える基盤は、**脆弱**と言わざるを得ない状況です。
- 重度・重複障害者にとっての学習は、人や社会とのつながりを持つ上でも大変重要なものである。本人や保護者、支援者には、**学校に就学している間にできていた学習**や周りの人との交流を**卒業後も継続したいとの希望が極めて強い**ことも念頭に置いて、**学びの場づくり**を進める必要がある。
- ライフステージ全体を通じて、本人が希望する学習を主体的、継続的に行うことができるよう、条件整備を行う必要がある。**生涯を通じて自己の発達や成長に向けて学び続ける環境の整備**を図ることで、障害者の真の社会参加・自立を実現することが期待できる。

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所(小平市)による「訪問カレッジ@希林館」の取組

「訪問カレッジ@希林館」について

＜実施主体＞ 特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所（平成19年設立）

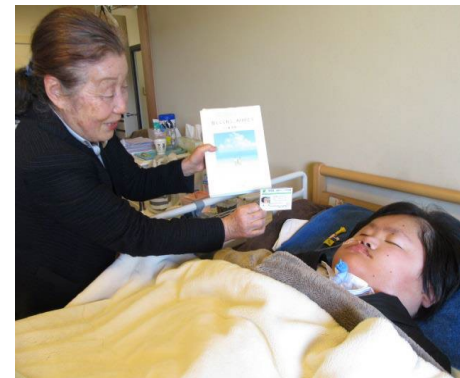
- ・重症心身障害児・者への支援事業として、平成24年から「訪問カレッジ@希林館」の活動を開始。
- ・「生きることは、学ぶこと。学ぶことは、生きる喜び。生涯にわたって、学ぶ続ける喜びを！いつでも、どこでも、だれにでも、生涯学習を！」をモットーに、特別支援学校などを卒業後、障害や病気のために通所施設等を毎日利用することが難しい18歳以上の方に対し、学習支援員が自宅に訪問して生涯学習を支援する訪問サービスを提供。

＜活動開始の理由＞

- ・医療的ケアが必要なために、生活介護事業所に入所できず（看護師がいらない、入所基準にない、事業所規則で対象外となっている等の理由により）在宅生活を余儀なくされている。
- ・入所後、医療的ケアが必要となり、退所を余儀なくされた。
- ・本人の希望する学習を支援するための訪問系のサービスがない。

＜意義と役割＞

- ・生命を育み生きる力を強める
- ・日常生活の空間を、知的刺激のある学びの環境へ整え、生活の質を高める
- ・家族以外の人との繋がりを広げる
- ・本人主体の活動を創出する
- ・家族の孤立化を防ぐ
- ・重症心身障害児・者の生命を尊重し、生命の価値を地域社会に発信する



「訪問カレッジ@希林館」による学びの構成

【学生の状況】 H30.4現在

- 在学学生15名（平成30年度入学者4名）
 - ・気管切開：10名
 - ・人工呼吸器：9名
 - ・吸引：11名
 - ・酸素療法：7名
 - ・経鼻経管栄養：7名
 - ・胃ろう：3名
 - ・IVH：1名
 - ・人工肛門：2名

○退学者とその理由

- ・死去：5名
- ・施設入所：1名 転居

○訪問先

- ・家庭：11名
- ・病院：2名
- ・入所施設：2名



【運営方法】

○学習支援員

- ・特別支援学校教員経験者 15名
- ・1回につき3000円の報酬（交通費無し）

○実施回数 週1回（月4回を上限）

前期・後期（8月と3月は休業月）

○学生の費用（授業料）1万円

○運営資金

- ①スタッフの外部専門家派遣（特別支援学校の自立活動に関する指導助言）謝金の一部
- ②賛助会員（個人）一口3千円 63名
（団体）一口1万円 4団体
- ③寄付金 スタッフが執筆した書籍の印税等

【学習プログラム】

○学習時間：2時間／1回

- 特別支援学校との連続性を重視し、一人一人の学びのニーズに応じて学習プログラムを作成

＜内容例＞

- ①身体の実践（マッサージ、体操）
- ②音楽・音楽鑑賞
（VOCALやiPadを使った音楽）
- ③意思伝達装置の活用
（レッツチャット・マイトビーなど）
- ④読み聞かせ
- ⑤美術制作
- ⑥俳句づくり
- ⑦英語
- ⑧創作（物づくり）



【重度重複障害者の生涯学習の充実に向けた方策の提案】

- ・在宅での学習に対する公的な支援、運営資金や人材の安定的な確保が必要
- ・学校在学中からICT機器を活用することによる、学校卒業後の学びやコミュニケーションの効果的なツールとしての活用
- ・重度重複障害者の生涯学習ネットワーク化による、学びに関する情報交換や理解啓発活動の充実

「生涯学習への意欲」の向上

新学習指導要領 第5節1の(4)

(4) 児童又は生徒が、学校教育を通じて身に付けた知識及び技能を活用し、持てる能力を最大限に伸ばすことができるよう、**生涯学習への意欲を高める**とともに、社会教育その他様々な学習機会に関する情報提供に努めること。また、生涯を通じてスポーツや芸術文化活動に親しみ、豊かな生活を営むことができるよう、地域のスポーツ団体、文化芸術団体及び障害者福祉団体等と連携し、多様なスポーツや文化芸術活動を体験することができるよう配慮すること

【ポイント】

児童生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に自己の進路を選択決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育成することが重要である。

全肢P連「東京大会」 分藤特別支援教育調査官資料

共に学び、生きる共生社会コンファレンス＜令和元年度実施＞

～障害理解の促進、障害者の学びの場づくりの担い手の育成、学びの場の拡大に向けて～

趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准等を踏まえ、誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、障害者の地域における学びの場を全国的に整備することが急務である。

そこで、障害者の生涯学習活動の関係者を集めた『共に学び、生きる共生社会コンファレンス』を全国ブロック別に開催し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行うことで、障害のある者となない者の交流による**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成**、**障害者の学びの場の拡大**を目指す。

コンファレンス実施イメージ

例1 障害者と日頃交流する機会がない参加者が、障害について理解を深めるための、障害者本人による学びの成果発表や、思いの表現等の機会を設定

例2 障害者の学びの場の担い手を育成するための優れた実践事例の発表や、ワークショップ等の実施

例3 実践者のネットワーク構築に資する、各テーマ（学びの場の類型、障害種、実施主体等）ごとの分科会の開催



実施例イメージ(文部科学省主催「超福祉の学校」平成30年11月)



実施規模

○全国を6ブロックに分け、複数の都道府県の域内関係者を対象として実施

(北海道・東北・関東甲信越・東海・北陸・近畿・中国・四国・九州・沖縄ブロックの6ブロック)

参加者

○100～200名程度を想定

○障害者本人、学びの**支援者**・関係者、障害者の学びに関心のある人など

⇒都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

目指す成果

- 全国各地における障害理解の促進
- 実践者同士の学び合いによる担い手の育成
- 障害者の学びの場の拡大

誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、
生きる共生社会の実現

「障害者の生涯学習の推進方策について」(報告)31. 3

(重度・重複障害者の学び)

- 東京都重症心身障害児(者)を守る会の各分会の協力を得て、地域ケアさぽーと研究所が実施した調査(平成28年)によれば、重度・重複障害者の生涯学習ニーズとして、音楽を楽しむことや健康・体づくり、アロマセラピー、読書活動等が挙げられた。
- 重度・重複障害者が、学校卒業後も生活年数を重ねることで感情の表現なども豊かに成長することに鑑みると、ICTを活用した意思伝達、意思表示装置を使用した学習や、タブレット端末を活用した音楽に関する学習、身体活動等に関する**プログラム開発**を行っていくことも重要と考えられる。「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」に協力している。

課題②「訪問カレッジ」は福祉と教育の谷間
生涯学習の種まきをしてきた→芽が出て、双葉となり、
若葉→大樹(制度)まで、**頑張る！！！！**

- 「私たちは、これまで医療的ケアの必要な方々の生涯学習の種まきをし、その芽が育ち、やっと双葉になっているところです。
- 報告書は、やがては青葉が繁り、大きな樹になることを期待している関係者にとっては、「基盤となる立派な植木鉢のプレゼントをもらった！」です。
- これまで、方向性も指針も何もない状況で、歩んできましたが、**時を刻んでいけば、着地点が見えてくると、感じました。「歴史の道は、言い出して5年、実現までには 10年です」**